皐月 俳句・短歌集

篠南川柳会

智恵袋底が裂けたか出ても来ず　田中すみ子
ていねいな言葉使えばとちる舌　木本　清子
良い品種違いがわかる生産者　田村　京子
旨い物ひと味違う塩加減　前田由紀子
読めないが流れるような草書観る　田中　保美
こんな字も忘れたのかと辞書を引く　芝田　憲蔵
うっとりと湯船につかる至福時　谷口千代子
親がする子がするように孫がする　松本もとお
すまし顔一段違うボタン穴　松本　安子
あとちょっと無理やり詰めるゴミ袋　射場ちずる
躓いて恥ずかし紛れ舌を出す　篠原みち子

内海俳句会

梅古木威儀を正して芽吹きたり　太田　信子
風の意か蝶と化したり豆の花
万緑の詠歌連峰谺しぬ　岩森十志子
今生の華と仰がむ花万朶

菊川俳句会

鶯に呼び止められし山路かな　宮下　熊夫
同志寄る好天見頃の花見酒　井関　禎美
閉校や児らの声消え散る桜　井関　満子
口開けて寄り来る鯉や花筏　小野山シマ子
そよ吹けば喇叭水仙そよと揺れ　村尾加都子
啓蟄やそっと踏み出す草の上　長田　高明
機知に富む講演楽し春うらら　長田千恵美
盃に夜桜散らす薄明り　中川　一喜
引き潮に身を任せつつ花筏　長尾　則夫
新しき仲を取り持つ宴桜　森　早織梨
にんまりと今年もやります四月馬鹿　橋本ひかる
梅の実やふくれっつらする子供かな　鱒　瑞貴
泣き止む子紫雲英一つを髪に挿し　小野山果林
春嵐杉の枝葉をゆさぶるな　宮本　翔吾

さわらび短歌会

剣道着年齢顧みず新調す生きてるうちは青春なんだ　澤近　正弘
溶接機長年使いて故障せり兄弟寄りて知恵を出し合う　前田　昭夫
桜ばな散りてしまえばこの町は寂しきまでに人声もなし　藤井　擴
広い空川の流れも知らずして二匹のメダカ五年を生きる　河上　明美
あと二人手紙書きたき人がいて急いで蒔きし種散らばりて　木本　清子
きのう打ちしわが畑の土朝よりの温き雨に黒々とあり　松本マス子
延光寺の裏山桜満開のミニ四国参る木漏れ日の中　扇野八代生
どれほどの余生と知らず春を待つ白寿のひとの言の葉身に沁む　前田　知子
手伝いに帰りし娘は庭隅の蕗を摘みきて昼餉に添うる　水野美代子
障子破る悪しき遊びを覚えたり止めても曾孫すぐまた破る　山崎　能子
木蓮の花いっせいに咲きたれば遺影に近き窓開け放つ　前田　充
箱苗に水をやりつつこの朝も生き生きゆらぎ田植えも近し　岩村千代子
人は皆死ぬものなれど遺されし者の悲しみは波のように来る　安村寿美子
休みづかれと先生は言われるも完治たまわり必ず叶う　宮本ヨリコ
梅祭りに何年振りかに誘われて南楽園を娘に添い巡る　山本　豊子
突然に朝のニュースは打ち切られチリ地震津波岩手に着きしと　吉田　信保
外孫の次男に「歌月」と名をつけて歌をもつくる子にありたしと　田中久二恵

はじめまして。赤ちゃん。

3月受付分（敬称略）

地区名	子の名	保護者

ご冥福をお祈りします。

3月受付分（敬称略）

地区名	亡くなった方	享年

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。